

古材利用時の留意点はあるの？

古材の状態等を踏まえて適材適所で活用する必要があります。

古材は大きさや品質、樹種等に応じて適材適所で活用することが必要です。欲しい材が見つかるまで、時間が必要になることもあります。

古材利用時の留意点はあるの？

安全性に関して留意が必要です。

構造材やインテリア材としてリユースする場合は、安全性の観点から、古材の品質確認が重要です。加工・販売事業者がどのような検査・対策を行っているか、また、用途や利用方法に応じて建築基準法等の各種現行法令への適合の可否を建築士に確認すること等が必要です。（国内の建築物で利用する場合には、建築確認等の諸手続が必要になる場合があります。）



リユース（再使用）に向けた古材の状態確認



- 加工・販売事業者の中には、古材1点1点を鑑定し、PL法（製造物責任法）に基づく保証を付与し、万が一のトラブル時に購入者を守る取組みを導入している事業者もいます。
- 古材の品質調査としては、古材の強度測定（ヤング係数）、古材の含水率、外観確認（異物の混入の有無、洗浄の必要性の検討）等が挙げられ、調査により、材として十分活用できる品質であることを確認しています。

古材リユースの促進に向けて

ひと昔前、古材はリユース（再使用）することが当たり前でした。古材にはケヤキやサクラ等、銘木と呼ばれる木材も多く、現在では入手困難な貴重なものも多数あります。また古材をリユースすることは、脱炭素社会の実現や循環型社会の形成に向けた、有効な取り組みの1つでもあります。是非多くの方に“古材を使う”という選択肢を知っていただき、利用に向けた検討をお願いします。

発行

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室

協力

国土交通省住宅局住宅生産課木造住宅振興室

資料提供

一般社団法人全国古民家再生協会



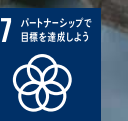
Reuse



古材リユースのすすめ

古民家の解体時に古材を取り出し再使用できます

皆さんは、古材というものを知っていますか？古民家の解体時や改修時に、まだ使える材として取り出されたものを古材と言います。使われなくなった古民家の解体事例は全国でも多数ありますが、これらの中には有効利用できるにも関わらず、廃棄されてしまっている材が含まれています。古材は安全性等を確認の上、材としてリユース（再使用）することができます。古材をリユースすることは、循環型社会の形成を推進するとともに、持続可能な生産と消費、気候変動への対策、経済成長と雇用など、持続可能な開発目標（SDGs）の多くのゴールの達成にも寄与する取組となります。



古材ってどんなもの？

古民家の解体時等に、まだ使える材を取り出し、再使用するものです。

古民家の解体時や改修時に、まだ使える材として取り出されたものを「古材」と言います。古材は、加工・販売事業者（材木店）にて品質を確認され、安全に使用できるものがリユースされます。多くの古材は国産の自然乾燥材です。

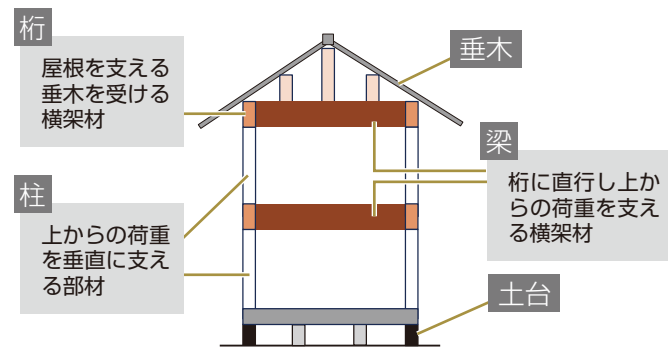


施主又は工務店等が、必要な古材を加工・販売事業者から購入し、住宅の建築やインテリアに用いられます。

古材ってどんなもの？

古材は主に住宅の梁・桁材と柱材に使用されています。

古材は住宅の中でも梁・桁材と柱材に主に使用され、これだけで建材利用の8割程度(材積ベース)を占めています(令和2年度の環境省のアンケート調査結果より)。構造材としての利用以外にも、インテリア材、DIY・日曜大工での利用等、古材の特徴・魅力を踏まえて様々な利用方法が考えられます。



コラム

古民家をそのまま利用する「移築」

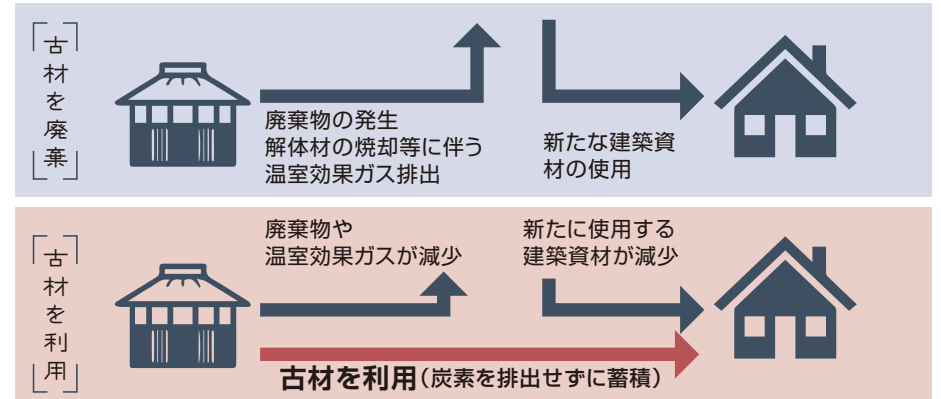


- 誰も住んでいない「空き家」が問題となっている地域も存在します。地方自治体の中には、そのような空き家の保全・移住・別荘利用の促進とともに、価値ある古民家の移築による活用を進めている例もあります。
- 移築では、古民家を手放したい人、利用したい人をマッチングするとともに、移築のパターンも、そのまま完全に移築するケースのみならず、部材だけや間取りの一部を再築するケース等様々あります。
- 近年では、日本の古民家を海外に移築する事例もあります。

古材を使うとどのような良いことがあるの？

廃棄物の削減や温室効果ガス排出抑制につながります。

古材をリユースすることで、廃棄物の発生量を削減できます。また、炭素を蓄えた木材を廃棄せずに、住宅に再利用することで、温室効果ガス排出量の抑制にもつながります。



古材の利用にはどのような方法があるの？

住宅の新築や、DIY・日曜大工での家具やインテリアの作成に使えます。

新築に使う場合は、設計をお願いしている建築士や工務店等に相談してみましょう。

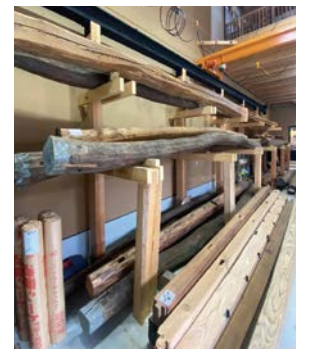
古材利用に関して、独自の基準やガイドライン・資格制度を運用し、専用の相談窓口を設けている民間の専門団体もあります。



梁に利用した事例



柱・梁に利用した事例



古材の倉庫の様子



古材を使ったフォトフレーム、椅子

コラム

経年による味わいなど、古材ならではの魅力があります



- 新材にはない、経年による味わいがあるなど、古材ならではの魅力があります。新材ではなかなか入手できないような、大きな木材が見つかることもあります。
- 工業製品とは異なり、それぞれ異なる歴史の味わいを持つことは古材の特徴と言えます。